

1 太平洋戦全国戦災都市空爆死没者慰霊塔



※写真提供 姫路市



基本情報

所 在 : 手柄山中央公園内  
 住 所 : 兵庫県姫路市西延末440  
 (JR姫路駅・山陽電車 山陽姫路駅より 神姫バス「手柄山中央公園」下車すぐ)  
 連 絡 先 : 財団法人 太平洋戦全国空爆犠牲者慰霊協会 (事務局 姫路市福祉総務課内)  
 079-221-2303 (直通)  
 建 立 者 : 太平洋戦全国戦災都市空爆犠牲者慰霊協会  
 建 立 年 : 昭和31年10月26日

碑 文

【表】

太平洋戦全国戦災都市空爆死没者の  
 霊  
 此のところに眠る

【裏】

太平洋戦争の惨烈なる兵火は昭和二十年八月十五日わが日本の無條件降伏によって終熄したその後約七年の間わが国は連合軍の占領管理のもとに置かれたが昭和二十七年四月二十八日サンフランシスコ平和条約の発効によって漸く國家主権を回復することができたこれに伴い政府はこの戦争の犠牲となつて死没した軍人軍属に対する敬弔とその遺族に対する慰籍の方途は一應これを定めたが身に何等の防備なくして無慙なる空爆のなかに敢なく非業の死を遂げた幾多の無辜の市民については全くこれを顧みるところがなかつたここにおいてあの曠古未曾有の戦災を蒙り廢墟と化した全国百十三の都市を斜合して結成された全国戦災都市連盟は昭和二十二年一月その結成以来主力を戦災復興に盡して来たがたゞに形の上の復興のみに終始する事なく政府の施策にもれた戦災都市空爆死没者の慰霊をも併

せ行うべく昭和二十七年五月十七日福井市における第十回定期總會の議に諮り太平洋戦全国戦災都市空爆死没者慰霊塔を建立することを決議しその設置場所を全国戦災都市連盟發祥の地でありその本部の所在地たる姫路市とすることに満場一致で決定したかくてこの企てがひとたび世に發表されるや果然全國民の間に澎湃として共感を呼びおこし各都市をはじめとして小學校の児童中學校および高等學校の生徒婦人團體のほかあらゆる階層あらゆる職域から翕然として多額の浄財が寄せられた従つてこの慰霊塔はこれら全國民敬弔哀悼の至情の結晶であるこれが持つ意義は太平洋戦争における不幸なる空爆犠牲者の霊が暖かい同胞愛に抱かれて眠る安息の場であり戦争の悲惨なる真相を知らしめる記念塔であり更に今一つには戦争というものは生ける者も死せる者もこの悲劇に見舞われ國破れて山河あ

りとは雖もかくも荒廢を来しその復興はかくも難行苦行をもたらすものであることを後世に傳え洋の東西を問わず生きとし生けるもの強く相携えて戦争防止への最善を致すべきであることを訓えるものであつてこの慰霊塔に詣ずる者の聲は世界の隅々へまで平和の祈りの聲として響き傳わることを念じて建立されたものである

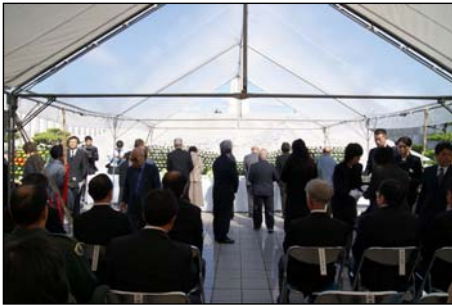
昭和參拾壹年  
 全國戦災都市連盟  
 名譽會長 衆議院議員 大野伴睦  
 會長 姫路市長 石見元秀  
 副會長 鹿兒島市長 勝目清  
 同 富山市長 富川保太郎  
 同 徳山市長 黒神直久  
 同 布施市長 鈴木義伸  
 同 長岡市長 内山由藏  
 支部長 副支部長

説 明 文

太平洋戦全国戦災都市空爆死没者慰霊塔

この塔は先の大戦で空爆の犠牲となられた方々への慰霊に資するため、全国からの浄財により1956年(昭和31年)10月26日に建立されました。現在は109都市(東京都を含む)が加盟する財団法人太平洋戦全国空爆犠牲者慰霊協会が維持管理を行っております。中央の塔身は刀を地中に埋めた形で「もう戦争はしない」ということを表現しており、側柱には建設にかかわった全国戦災都市連盟(113都市加盟)の被災記録などが刻まれています。竣工以来、毎年10月26日に塔前においてこの浄域に眠る加盟都市50万9700余柱の犠牲者を追悼する平和祈念式典を挙行しています。

2 太平洋戦全国空爆犠牲者追悼平和祈念式



開催概要 (平成23年度)

歳 事 名 : 太平洋戦全国空爆犠牲者追悼平和祈念式  
 会 場 : 手柄山中央公園  
 (JR姫路駅・山陽電車 山陽姫路駅より 神姫バス「手柄山中央公園」下車すぐ)  
 日 時 : 平成23年10月26日(水) ※例年10月26日開催  
 参 列 者 数 : 約500人  
 連 絡 先 : 財団法人 太平洋戦全国空爆犠牲者慰霊協会 (事務局 姫路市福祉総務課内)  
 079-221-2303 (直通)

式次第 (平成23年度)

1. 開 式
2. 黙 と う
3. 式 辞 : 財団法人 太平洋戦全国空爆犠牲者慰霊協会理事長
4. 追悼のこぼ : 内閣総理大臣、全国市長会会長、兵庫県知事、姫路市議会議長
5. 献花・千羽鶴
6. 閉 式

式 辞 (平成23年度)

式 辞

本日ここに、ご遺族並びにご来賓各位のご参列のもと、平成二十三年度 太平洋 全国空爆犠牲者 追悼平和祈念式を執り行うに当たり、この浄域に眠る、百十三都市五十万九千七百余の御霊に対し、謹んで追悼の誠を捧げます。

諸霊は、東京、大阪をはじめ、全国各地を標的とした空爆により、悲しくも犠牲となられたものであり、残されたご遺族の皆様への深い悲しみを思うとき、今なお深い悲しみが胸に迫ってまいります。ここに、心から哀悼の意を表します。

数多くの尊き命が失われた先の大戦から六十六年の歳月が過ぎ去りました。当時は空爆のため、全国の主要都市が壊滅的な被害を受け、その機能は麻痺状態に陥りました。

しかしながら、戦後、我が国は焦土の中から立ち上がり、幾多の困難を乗り越え、国民一人ひとりのためめ努力により、めざましい発展を遂げ、平和と文化の薫り高い、民主国家に生まれ変わりました。

また、空爆を受けた各都市においても、廃墟と化した戦災の傷跡から、多くの試練を克服し、個性と魅力のある都市づくりに邁進され、発展を遂げてこられました。

この間の試練とご苦勞は、筆舌につくし難いものがあつたと拝察いたします。

とりわけ、ご家族を亡くされたご遺族の皆様のご今日までのご苦勞と悲しみは、とうてい言葉に言い表すことができません。

戦後、年月の経過と共に、戦争を知らない世代が増えておりますが、戦争体験を風化させないよう、この平和で豊かな今日においてこそ、空爆の犠牲となられた方々に思い馳せるとともに、再び戦争の惨禍を繰り返すことのないよう、平和の尊さを発信し続けていくことが、我々に課せられた重大な責務であります。

全国民の平和のシンボルとして、空高くそびえ立つ、この慰霊塔に列せられた皆様、恒久平和を強く願う祈りが、思いを同じくする全世界の人々に届けられんことを念じつつ、先の大戦で学んだ多くの教訓を改めて深く心に刻み、平和で心豊かな社会の実現のため、一層の努力を捧げることをお願い申し上げますとともに、御霊がとこしえに安らかならんこと、また、ご遺族の皆様方のご健勝とご多幸を心から祈念いたしまして、式辞といたします。

平成二十三年十月二十六日  
 財団法人 太平洋戦全国空爆犠牲者慰霊協会  
 理事長 石見 利勝

追悼のこぼ (平成23年度)

「平成二十三年度太平洋戦全国空爆犠牲者追悼平和祈念式」  
 における内閣総理大臣の追悼のこぼ

本日ここに、太平洋戦全国空爆犠牲者追悼平和祈念式が挙行されるに当たり、謹んで追悼のこぼを申し述べます。

終戦から六十六年が過ぎ去りました。どれだけ月日が流れようとも、心ならずも戦禍の中で亡くなられた犠牲者の方々への思いは、決して消え去ることはありません。

東日本大震災で、私たちは、今ここに命が一瞬のうちに奪われ、長年培った郷里や家族との暮らしが無残に引き裂かれる不条理を目の当たりにしました。多くの国民が、今、先の大戦に身を置いた同胞たちの悲しみ、苦しみ、そして無念さを、我が事に照らし合わせて、強く思い致しています。

改めまして、全国の空爆犠牲者の方々の御冥福を心からお祈りするとともに、最愛の肉親を失った悲しみに耐え、苦難を乗り越えてこられた御遺族の皆様へ、深く敬意を表します。

我が国は、戦後の廃墟から立ち上がり、幾多の困難を乗り越えながら、平和と繁栄の時代を築いてきました。その原動力となったのは、国民一人一人の平和への願いと、それに裏付けられた各国・各地域との友好関係に他なりません。大震災後に世界各国から寄せられた支援はその証であり、私たちに希望と勇気を与えています。

平和への思いを分かち合い、世界の人々との「絆」を更に深めていくためにも、悲惨な戦争の教訓を語り継ぎ、広く世界に発信していくことも欠かせません。戦争の惨禍を二度と繰り返すことのないよう、今後とも、各国との友好関係を基礎として、世界の恒久平和の確立に全力を尽くすことを、ここに改めて誓います。

終わりに、皆様方の御平安を心から祈念して、追悼のこぼとします。

平成二十三年十月二十六日  
 内閣総理大臣 野田 佳彦